



発行 2002年9月30日
 編集 群馬県大学図書館協議会
 「会報」編集委員会
 前橋市荒牧町4-2
 (群馬大学附属図書館内)
 ☎ 027-220-7169

第88回 全国図書館大会(群馬大会)

第3分科会(大学図書館)、第4分科会(短大・高専図書館)

開催日程10月23日～25日 分科会開催 10月24日(木)

第88回全国図書館大会開催準備委員会は、平成14年度から実行委員会へ移行し、分科会構成検討委員会は分科会運営委員会へ移行しました。第3、第4各分科会運営委員会は、分科会の開催テーマ・講演および発表者、日程、係員・役割分担等の分科会運営計画書(案)を作成して、本協議会の協議を経て、9月3日の第3回運営委員会、9月27日の第2回大会実行委員会で協議され、10月23日から大会日を迎えます。

《分科会運営計画書の概要》

第3分科会 会場：群馬大学

テーマ：大学改革と図書館 ——これからの大学図書館のあり方を問う——

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 基調講演：「大学改革中の大学図書館」 | 講師 千葉大学教授 土屋俊氏 |
| 事例報告：「総合情報センターへの統合」 | 発表者 立命館大学総合情報センター次長 田中康雄氏 |
| 「私立大学図書館ネットワークの試み」 | 発表者 明治大学教育振興部事業課長 飯澤文夫氏 |
| 「図書館利用者アンケートの分析」 | 発表者 群馬大学附属図書館図書情報係長 滝澤憲也氏 |

第4分科会 会場：群馬県民会館・前橋商工会議所

テーマ：利用者が求める図書館のゆくえ ——携帯世代への情報リテラシー——

- | | |
|----------------|----------------------|
| 基調講演：「変化を学習する」 | 講師 国際基督教大学図書館長 長野由紀氏 |
| 「図書館の環境」 | 講師 群馬工業高等専門学校長 吉澤晴行氏 |

(短大分散会)

事例報告：「図書館員から見た学生のリテラシー」

- | | |
|---|--------------------------------|
| 発表者 羽衣国際大学・短期大学学術情報センター内 研究支援オフィス 川崎千加氏 | |
| 「学習共同体のひとりとして」 | 発表者 大阪女学院短期大学名誉教授 丸本郁子氏 |
| 「利用者の求める図書館員の養成」 | 発表者 高崎健康福祉大学図書館短期大学部分館長 橋本登美雄氏 |

(短大分散会)

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 事例報告：「航空高等専門学校での3年」 | 発表者 東京都立航空高等専門学校図書係長 松田明子氏 |
| 「高専図書館で情報リテラシー教育は可能か」 | |

- | | |
|------------------------------------|--|
| 発表者 金沢大学附属図書館情報管理課電子情報係長 橋洋平氏 | |
| 「長岡技術科学大学における研究室出張文献セミナーの取り組みについて」 | |
| 発表者 長岡技術科学大学附属図書館情報サービス係 安原明子氏 | |

参加のご案内

10月23日の大会初日は、開会式、表彰式、基調報告、哲学者 内山節氏による記念講演「豊かな生のために」などが群馬県民会館で開催されます。10月24日は分科会(上記)を開催、10月25日は全体会、シンポジウム「進化する図書館」、大会報告が予定されています。

大学、短大、高等専門学校図書館等関係者の皆様にご参加くださいますようお案内いたします。

全体会・分科会係員の協力依頼

全国大会係員として、開催初日の係員25人、2日目第3分科会係員24人、第4分科会18人、群馬県大学図書館協議会関係者の皆様へご依頼いたしました。

図書館業務のお忙しい中、開催事前準備、開催当日はいろいろお世話になりますが、よろしくお願ひいたします。
 (第3、第4分科会運営委員会)

協議会長就任 の挨拶

群馬大学附属図書館
館長 中村 喜美郎



平成14年4月より、群馬大学附属図書館長に就任しましたが、同時に、群馬県大学図書館協議会会則第5条第2項の規定により、本協議会常任幹事館の長という立場から、本協議会会長に就任いたしましたので、会員の皆様に一言ご挨拶申し上げます。本協議会の目的は、県内大学図書館の相互協力の進展を図ることにあります、今日の情報ネットワーク社会において、その連携の役割はますます大になってきております。

平成6年の発足以来、本協議会の活動にはまことに目覚ましいものがあり、今後の活動に大きな期待がかけられております。しかし、同時に、今後の図書館の在り方と相互連携をめぐる困難な課題も背負わされていることも事実であります。

電子図書館的機能の充実、ハイブリット図書館をめぐる問題点、県内公立・私立図書館との連携、さらには広く地域連携の在り方等の課題があります。また、国立大学附属図書館にとっては、目下の最大課題でもあります独立法人化への緊急の対応、さらに大学再編統合問題等が重くのしかかってきていることも周知の事柄です。群馬大学と埼玉大学との再編統合が実現すれば、ひいては本協議会の運営組織にも大きな変動をもたらすことにもなりかねません。不透明性、流動性が周辺に漂い始めています。

さらには、平成16年4月実施の独立法人化のスケジュールが組まれていますが、現行の国立学校設置法第6条に規定されている国立大学附属図書館の法的根拠が、法人化に伴う同法の廃止により消滅し、新たに立法化される国立大学法人法(仮称)の中に規定化されるか否かについて、去る6月に鳥取で開催された国立大学図書館協議会総会でも議論されたところです。先頃(8月26日)、東京大学附属図書館会議室において、全国の国立大学附属図書館長有志で構成されている法人化対応の懇談会が開催され、私も出席して参りましたが、附属図書館と法人化との関係をめぐり、かなり緊迫した雰囲気の中で熱心な情報交換が行われました。国立大学附属図書館にとってもこれからが正念場になるでしょう。このことは、本協議会ともまったく無関係ではありませんの

で、情報提供という意味合いで、あえてこの場をお借りして触れさせていただきました。

さて、今年の10月には、第88回全国図書館大会が本県において開催されますが、本協議会としても、第3並びに第4分科会を準備し、各々「大学改革と図書館～これからの大学図書館のあり方を問う～」「利用者が求める図書館のゆくえ～携帯世代への情報リテラシー～」という、いずれも今日の図書館がかかる重要課題について白熱した議論が展開されるものと期待されています。その準備に当たってこられた本協議会の担当者の熱意とご苦労に対して、心からの敬意を表したいと存じます。

最後に、本協議会の活動がいっそう充実したものとなり、今後も活発な運営が継続的に行われることを祈念し、会長就任の挨拶とさせていただきます。

【各館トピックス】

<図書館新システム導入経過>

群馬県立女子大学附属図書館 川島 裕

私が、本学附属図書館に着任した平成9年度時は、もはや本学を含めた、3、4の公立大学図書館が未電算化であるにすぎなかった。

前任の群馬県立図書館では、平成6年度に電算化されていたので、再びカードの世界に戻ることには、大きな戸惑いを感じた。やはり、電算による貸出出納や統計の算出、図書の検索などを経験した者には、膨大な時間がかかる手作業のそれは前世紀のもののように思えてならなかつた。

資料調査等で他大学を訪れ、電算化を『経験している』教員側からも電算化を待望する声が挙がっており、平成10年度、新図書館長に就任した岡本隆雄教授(現奥羽大学教授)と相談のうえ、最優先課題として「電算化」を位置づけ、11年度向けの予算要求を行うこととなった。とはいっても、13万冊(研究室図書を含めると18万冊)にのぼる所蔵数であり、その措置金額は高額になるのは必至である。財政難のおり、財政当局に理解していただくのも苦心惨憺であった。日本地図に各公立大学(66)を記した上で、電算化された大学を塗りつぶし、いかに未電算の大学が少ないか、本学がいかに遅れているかをアピールした。幸いにも上司の奔走により、当局の理解を得ることができ、導入が認められた。

これにより、11年の夏には、国立情報学研究所に登録したうえで、まず、利用の多い文学芸術図書6万冊のバーコード貼付(夏休み中に完了)とデータ化(12年2月完了)を行った。

12年2月、残りの7万冊にバーコードを貼付した(11月にデータ化完了)。作業は外部委託とし

た。この間、入札によりシステムは伊藤伊の I L A S に決まり、文学芸術系6万冊のデータ化が終了した12年2月に部分稼働し、残り7万冊のデータ化が終了した同年年11月に全面稼働するに至った。

また、13年8月から14年3月にかけ、研究室図書5万冊をデータ化し、同時に研究室の教員端末を図書館システムに接続し、ようやく他大学に肩を並べられるようになった。導入に際し、ご教示をいただいた県内関係者の皆様には感謝申し上げたい。

<平成14年度「研究会」開催>

高崎経済大学附属図書館 松本 好則



大学図書館間の交流と、共通認識を深め、事務担当者の専門知識の教養高揚を目的として、今年度の群馬県大学図書館研究会が9月5日に高崎経済大学を会場に開催されました。

本年度は「資料保存」を主テーマとして、群馬県立文書館の岡田古文書課長さんより、「記録史料の保存環境と装備：県立文書館の場合」について研究発表をお願いいたしました。次に自由討議では、事前アンケートによる各館の資料の保存に関する調査報告をもとに、現状の問題・課題や取組みについてたくさんの話し合いがされました。また、終了後に開かれた懇親会では、その他の各館の実務的な現状や課題、相互利用、レファレンス・サービス対応などの活発な情報収集のための意見交換がおこなわれ、充実した研究会になりました。

日 時 平成14年9月5日(水)

主 催 群馬県大学図書館協議会

共 催 群馬県図書館協会

会 場 高崎経済大学附属図書館ホール及び会議室

テーマ 「図書資料の保存について」

日 程 研究会(参加者30名)

1. 研究発表

群馬県立文書館

古文書課長 岡田昭二 氏

「記録史料の保存環境と装備

～群馬県立文書館の場合～」

・記録史料・文書館とは？

・文書館の設置と施設・設備



・記録史料の保存と整理

・結びにかえて

等々の永年保存する図書

資料の施設的環境について。

2. 自由討議(参加者27名) 15:20～

各館へ依頼した「図書館資料の保存に関するアンケート」による参加者討議会。

3. 図書館見学 懇親会：三扇会館(大学内)

<図書館事務室の仕事>

前橋工科大学附属図書館 小淵 里紗

前橋市に就職して、工科大附属図書館勤務になつて3年目になります。3年目の私が図書館事務室勤務年数がいちばん長くなりました。

図書館事務室は、図書館に関わる施設関係以外の業務をしていますので、いろいろな仕事があります。今年、職員が1人減員になって、予算・庶務関係が私の仕事に加わりました。予算・決算、給与・手当、嘱託員の任用、物品の購入・リースや保守契約、支払い事務など学習しています。

図書館関係の業務は、窓口業務のほかに、窓口当番表作成、図書委員会、図書の発注、購入・支払い、延滞の督促、統計の抽出、蔵書点検、照会の回答などが私の業務分担です。

授業開始になる10月から、午後10時までの夜間開館が始まります。当番に当たる週は、土曜日まで午後からの勤務になるので、一般事務をする時間は半分になってしまいます。

<業務改善策>

前橋工科大学附属図書館 倉林 邦男

「大学改革」の見出しの続きは、産学官連携、地域貢献、情報化、電子化、4年制移行、さらには統合、法人化、生き残りという文字が並びます。

図書館も今、「改革、経費節減」の渦の中にあって、業務の見直しが重点課題になっています。

前橋工科大学は、4年制の工学部3学科、昼夜開講制に移行し、平成13年度から大学院を設置、学部学生1,255人、大学院生88人、教職・技術員68人、事務局及び図書館職員32人の規模です。

附属図書館は、職員2人が減員になり、現在、職員2人、嘱託員5人、開館時間は、月曜～土曜日9:00～22:00まで延長しました。また、今年度より情報センターを設置、設置要綱、利用要綱が制定されました。これに伴い、情報センターの予算、運営委員会事務、機器の購入、保守契約その他の庶務が図書館事務室に移ろうとしています。

業務の見直し、改善、合理化の取り組み

- ①図書館システムの新機種導入の予算要求
現システムは、Web機能がないため、NAC SIS-WebCATからの取り込みができない。新システム導入により書誌検索、データ入力業務、発注、受け入れ等の業務の合理化を図る。
- ②雑誌室の改善・雑誌バックナンバーの貸出
バックナンバーの館外貸出を行い、利用者の利便と雑誌の亡失を防止する。
雑誌に館名シールの添付による亡失の効果。
- ③利用規則、学外者利用要綱の改正
利用規則は、貸出冊数及び期間、雑誌及び視聴覚資料の貸出等を改正。
学外者利用要綱は、県内大学図書館との歩調、公共図書館との関係、高崎市との連携による高崎市民の利用、近隣市町村区域の利用、高校生への開放、学習室の開放など。平成15年4月制定であります。
- ④窓口勤務体制の改善の検討
勤務人員体制、出勤時間、警備員、自動貸出機、アルバイトの雇用などを検討しています。

⑤教職員への貸出図書の延滞処理

14年3月、延滞教職員へ、督促状とは別に文書で通知。さらに、2ヶ月後、未返却の教職員に対し、文面を変えて通知しました。

この5か月間で次の結果になった。

(1か月以上の延滞)	延滞者数	延滞冊数
3月末の状況	34人	204冊
8月末の状況	9人	65冊

9月の蔵書点検後、延滞者に対し、3回目を通知する予定で事務を進めています。

⑥個々の事務の見直し

- 返却期限：日付スタンプを廃止、プリントしてある返却期限表を利用者が自由に持っていく。
- 雑誌の目次：目次コピー綴りの廃止。
- 大学関係ニュース：毎日の新聞のコピー切り抜きを廃止。
- 図書の受け入れ：研究費購入図書及び寄贈図書で図書館蔵書と重複するもの、不用なものは受け入れしない。
- 図書の装備：受入印を廃止して、分類ラベル・バーコード・磁気テープのみとする。
- 図書原簿の廃止：蔵書ファイルを常用として代替えする。
- 図書の発注：可能な限りインターネットで発注する。
- 図書館事務マニュアル：見直し改訂中
など、身近なものから手がけています。

【会議報告】

幹事会会議

平成14年度 第1回

期日： 平成14年5月27日（月）

場所： 群馬大学附属図書館

議題： 報告事項

1. 平成14年度加盟館人事異動について
2. 平成14年度第88回全国図書館大会実行委員会について
3. 群馬県図書館協会創立50周年記念誌の発行について

協議事項

1. 平成14年度第88回全国図書館大会における図書館功労者表彰について
2. 平成14年度第88回全国図書館大会分科会運営計画書（案）について
3. 平成14年度大学図書館研究会のテーマについて

全国図書館大会第3分科会検討会議

平成14年度 第1回

期日： 平成14年5月14日（火）

場所： 群馬大学附属図書館

議題： 報告事項

1. 第88回全国図書館大会実行委員会（第1回）について
 2. 第3分科会会場の名称変更について
- 協議事項
1. 第3分科会企画・運営について
 2. 第3分科会運営計画書（案）について
 3. 第3分科会使用消耗品、機器等について

全国図書館大会第4分科会検討会議

平成14年度 第1回

期日： 平成14年5月13日（月）

場所： 群馬県立図書館

議題： 報告事項

1. 第4分科会当日の業務分担について
係分担について
係員の人数について
係員の応援依頼について
使用する消耗品について
タイムスケジュールについて

会報編集委員会

平成14年度 第1回

期 日： 平成14年6月4日（火）

場 所： 群馬大学附属図書館

議 題： 協議事項

1. 会報第8号、からつ風通信第14号、第15号の編集について

内 容：「会報」については、年間2回発行とし、8月、2月に発行する。「からつ風通信」は、会報へ吸収する。

8月発行の掲載内容

事業計画、予算案、図書館めぐり、各館のトピックス、研究会案内など。

2月発行の掲載内容

会報の副タイトルを「からつ風通信」とし、研究会の記事、全国図書館大会講演内容、出席覇者の感想文、会員からの寄稿文など。

なお、今年度の発行は希望により、印刷による発行と電子的発行を行う。

運営委員会

平成14年度 第1回

期 日： 平成14年6月4日（火）

場 所： 群馬大学附属図書館

議 題： 報告事項

1. 平成13年度活動状況について
2. 平成14年度事業計画について
3. 平成14年度第1回幹事館会議について
4. 群馬県図書館協会創立50周年記念誌について

協議事項

1. 平成14年度第88回全国図書館大会分科会運営計画について
2. 平成14年度大学図書館研究会について
3. 平成14年度における「会報」と「からつ風通信」について
- その他
1. 平成14年度群馬県大学図書館協議会会費の請求について

全国図書館大会第3分科会検討会議

平成14年度 第2回

期 日： 平成14年7月26日（金）

場 所： 群馬大学附属図書館

議 題： 報告事項

1. 第88回全国図書館大会全体会の協力館について

協議事項

1. 第3分科会企画・運営について
2. 会場の設営及び役割分担について

全国図書館大会第4分科会検討会議

平成14年度 第2回

期 日： 平成14年6月27日（木）

場 所： 群馬県立図書館

議 題： 協議事項

1. 全国大会の申し込みについて
- 運営委員の申し込みについて
- 講演者の申し込みについて
2. 高専分散会の協力者について
3. 運営委員の出張要請について

平成14年度 第3回

期 日： 平成14年7月25日（木）

場 所： 群馬県立図書館

議 題： 協議事項

1. 第4分科会の会場確認について
2. 第4分科会に必要な備品等の調査点検について
3. その他

【研究会・研修会予定】

大学図書館研究会

平成14年度

(群馬県図書館協会共催)

期 日： 平成14年9月5日（木）

場 所： 高崎経済大学

テーマ： 図書館資料の保存について

研 修：

研究発表

「記録史料の保存環境と装備」

講師 群馬県立文書館古文書課長 岡田昭二氏
研究発表及びアンケート等に基づく討議

事前に次の「図書館資料の保存に関するアンケート」を実施

全国図書館大会第3分科会 検討委員会

期 日： 平成14年10月16日（水）
 場 所： 群馬大学附属図書館
 テーマ： 協力者との打ち合わせ会議



〈北軽井沢と田辺元〉

群馬大学附属図書館 金井 義明

元京都大学名誉教授の田辺元（はじめ）は「種の論理」を提唱して田辺哲学を創立し、昭和25年に文化勲章を受賞した人物である。北軽井沢を愛し、昭和7年からここを訪れ、退官後には余生の地と決めて山荘を建て生活した。軽井沢と名は付くものの群馬県県境にあり、冬には摂氏零下10度以下にもなり、不便な土地であった。ここに沢山の私蔵する図書を持ち込み、思索を生き甲斐として、活発な哲学的活動を行った。後、病となって群馬大学附属病院に掛かり、昭和37年に77歳で亡くなる。優れた医師の治療を受け、優しい看護婦の世話になったことでもあったのであろう、遺志により、土地、建物、蔵書が群馬大学に寄贈され、図書雑誌は附属図書館に田辺文庫として所蔵されている。なかでも、思索を書き記した手帖、ノートなどは田辺元を知る上で貴重である。群馬大学の北軽井沢研修所は彼が思索に過ごした終焉の地であり、敷地内に書斎の建物と墓がある。戦後、自己批判を通して、誠実な哲学をする者として、この書斎で田辺哲学を再出発させた。彼の墓碑には、「私の希求するところは眞実の外にはない」と記されている。自由主義的な知識人の代弁者たろうとし、戦前、戦中の活動、そして戦後、彼の哲学の悲劇を自身で再生させた強者も、すでに忘れ去られて、この地に眠ることを知る人も少ないようである。

田辺 元（1885～1962） 哲学者

研究課題：近代科学の批判的再構築、カント、ヘーゲル、西田幾多郎を通じての絶対無の弁証法

〈読書について思うこと〉

明和学園短期大学図書館 小野里 喜一

一口に読書、すなわち本を読むことといつてもその内容は大きく2つに分かれると思う。読書の一番オーソドックスなものは、小説類を楽しみのために読むタイプだろう。

明治の文豪森鷗外や代表作に『夜明け前』を持つ作家・島崎藤村から、現代作家としては例えば井上ひさしや赤川次郎そして吉本ばなな（近作よりよしもとに改名とのこと）などまで、また外国文学を含

めればおびただしい数の作品群をわれわれは目の当たりにしている。こういった中から人は好きな作家やジャンルやベストセラーを追って読書することになると推測する。

私は、熱心な読書家ではないので、読書の楽しみをあまり味わったことがない。大学の時、先生から森鷗外の文体を体得すると文章を書くときに役立つという話を聞いたが果たされていない。

もうひとつの読書として研究のための読書がある。この読書は楽しいといふ人もいれば、忍耐であるといふ人もいるだろう。いずれにせよ専門分野の研究書を数多く読んだり、数多くのフィールドワーク（工場見学や古老からの聞き取り調査などの取材活動）を踏まえたうえで、まだ、研究者が気づいていないことや発見していないこと、さらには見落としてきたことなどを論理的思考力と読解力を駆使して文章化し、論文として発表することである。この場合、ひとつの論争がコップの中ものだった時、そのコップ自体が置かれている歴史的・空間的場所設定に疑念があるとするならば、その「コップ内論争」はちっぽけなものとして風化してしまうであろうし、より新たなパラダイムの転換をむかえることになる。

私は今、「東京ヘーゲル研究会」という学習・研究集団に所属してヘーゲルの『精神現象学』を読み進めている。というと聞こえはいいが実は月1回の学習会もさぼりがちであることを付言しておく。

近代哲学はデカルトに始まりドイツ観念論のヘーゲルをもって一応の完成をみるといわれている。彼岸・普遍的実在・人倫・即目的・無媒介態・純粹透見・媒語・対目的・聖なる立法者・道徳的世界観・全的に知ること・普遍態などといふ言葉が飛び交う独自のヘーゲルの「いいまわし」を称して「ヘーゲル語」などとささやかれる。ヘーゲル研究者の数だけヘーゲル解釈があるともいわれる。この研究会がめざしているものはヘーゲル解釈それ自体に目的があるわけではなくて、ヘーゲルを読み進めることをとおして現実世界や現代社会をより実践的に主体的に把握することにある。

本当の意味で浅学非才の身ながら、この研究会のリーダーの先生の書物を当人を前にして「わかりづらい」、「難解だ」、「ヘーゲル語でかかれてる」と非難してみたものの、どうも正確に厳密に簡潔に科学的に論述しようとするとそうならざるを得ないのであって、学習不足を自ら露呈してしまったのかもしれない。

こういう時代だからこそ、じっくり腰を落ち着けて哲学を学び哲学的思考力を経済学に連関させていく意義は大きいと思うし、ささやかだが息の長い学習を続けていきたい。

群馬県大学図書館協議会予算・決算報告

<平成13年度決算>

1. 収入の部

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	17,067	17,067	0	
会費(5,000×22)	110,000	115,000	5,000	新規加盟
群馬県図書館協会 大学図書館研究会費	30,000	30,000	0	
預金利息	48	15	△33	
合計	157,115	162,082	4,967	

2. 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
事業費 大学図書館研究会	50,000	17,182	△32,818	
図書館ネットワーク研究会	5,000	0	△5,000	
「会報」用紙・印刷費	55,000	14,073	△40,927	
総会(お茶代他)	10,000	10,000	0	
事務費 郵送料・通信費	5,000	4,620	△380	
会議資料費ほか	25,000	9,340	△15,660	
その他 予備費	7,115	106,867	99,752	次年度繰越金
合計	157,115	162,082	4,967	

<平成14年度予算>

1. 収入の部

(単位 円)

項目	13年度予算額	14年度予算額	増減	備考
前年度繰越金	17,067	106,867	89,800	
会費(@5,000×23)	110,000	115,000	5,000	新規加盟
群馬県図書館協会 大学図書館研究会費	30,000	30,000	0	
預金利息	48	15	△33	
合計	157,115	251,882	94,767	

2. 支出の部

項目	13年度予算額	14年度予算額	増減	備考
事業費 大学図書館研究会	50,000	50,000	0	
図書館ネットワーク研究会	5,000	0	△5,000	
「会報」用紙代・印刷費	55,000	29,000	△26,000	
全国図書館大会補助費	0	30,000	30,000	
総会開催	10,000	10,000	0	臨時支出
事務費 通信費	5,000	10,000	5,000	
会議資料作成費	25,000	20,000	△5,000	
その他 予備費等	7,115	102,882	95,767	
合計	157,115	251,882	94,767	

平成14年度事業計画

1. 事業

- (1) 相互協力の推進について
 - 「会員名簿」は年度当初に改訂、第1回運営委員会までに刊行する。
 - 「相互協力便覧」は年度末に改訂して刊行する。
- (2) 「会報」「からつ風通信」の発行について
 - 「会報」は8月、2月に発行する。
 - 「からつ風通信」は「会報」の2月に併合して発行する。
- (3) 大学図書館研究会のテーマ及び会場について
 - テーマ：「図書館資料の保存」
 - 開催日：9月上旬
 - 会 場：高崎経済大学
 - 内 容：①テーマに関する講演
 - ②各館の現状
 - ③事前調査のアンケートに基づく討議
 - (4) 第88回図書館全国大会開催
 - 会 期：平成14年10月23日から25日
 - 会 場：群馬県民会館をメイン会場として、商工会議所等で開催。
 - 分科会：14分科会で構成
 - 第3分科会（大学図書館）
 - 会場：群馬大学・大学会館
 - 第4分科会（短大・高専）
 - 会場：県民会館、商工会議所

2. 会議

- (1) 幹事館会議・総会の開催について
 - 幹事館会議は5月下旬、群馬大学を会場として開催する。
 - 総会は、平成15年3月に予定、会場は高崎健康福祉大学を予定。
- (1) 運営委員会
 - 平成14年度第88回全国図書館大会に向けて、役割分担、協力者の推薦、研究会テーマについて協議する。
 - その他、第3分科会、第4分科会運営委員、協力者等との打ち合わせを行う。

3. 日程

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 5月 | 第1回幹事館会議
会員名簿の改訂
会報編集委員会 |
| 6月 | 第1回運営委員会 |
| 8月 | 会報8号発行 |
| 9月 | 大学図書館研究会 |
| 10月 | 全国図書館大会 |
| 1月 | 会報編集委員会 |
| 2月 | 第2回幹事館会議
会報9号発行 |
| 3月 | 総会
相互協力便覧改訂 |

群馬県大学図書館協議会会員名簿

育英短期大学図書館
関東学園大学松平記念図書館
関東短期大学松平記念図書館
桐生短期大学図書館
共愛学園前橋国際大学図書館
群馬県立医療短期大学図書館
群馬県立女子大学附属図書館
群馬工業高等専門学校図書館
群馬社会福祉短期大学図書館

群馬松嶺福祉短期大学図書館
群馬大学附属図書館
群馬大学附属図書館 医学分館
群馬大学附属図書館 工学部分館
群馬パース看護短期大学図書館
上武大学附属図書館
上武大学附属図書館 分館
高崎経済大学附属図書館
高崎芸術短期大学図書館

高崎健康福祉大学図書館
高崎健康福祉大学短期大学部分館
高崎商科大学図書館
東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館
東洋大学附属図書館板倉分館
新島学園女子短期大学図書館
放送大学群馬学習センター図書室
前橋工科大学附属図書館
明和学園短期大学図書館

編集後記

会報第8号をお届けします。

今年度は、全国大会開催等お忙しい中、原稿を寄せていいただきました皆様に感謝申し上げます。
次号の原稿（仕事の改善、アイデア、各館トピックス、ご意見など）よろしくお願ひします。

◎編集委員

金井 義明(群馬大学附属図書館) 倉林 邦男(前橋工科大学附属図書館) 小野里 喜一(明和学園短期大学)